昆蟲部

大正六年十二月

出版第一二五號

沖繩縣與那國島視察報告

臺灣總督府農事試驗場

AGR. EXP. STA.
NO. 72. 49.
DIV. ENTOMOLOG
農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895
430.34
4322
n.125

目次

一 日誌……一
二 位置及地形……二
三 地質及土性……三
四 氣候……五
五 廣袤及土地利用……六
六 人口……八
七 島民の衣食住……一〇
八 農業一斑……一四
九 農作物……一八
一〇 家畜……二一
一一 結論……二三

農業部農業試驗所典藏
由國家圖書館數位化

臺灣省農業試驗所
圖書室
應用動物系
農業部農業試驗所
1895

沖繩縣與那國島視察報告

臺灣總督府農事試驗場技師　澁谷紀三郎

一　日誌

十月四日(木)　曇
午後二時臺北發同三時基隆著總督府水産試驗船凌海丸に便乘午後五時出帆
十月五日(金)　曇、少雨
午前六時半與那國島の北岸租納(そない)沖に投錨上陸を試みたれども波浪高くして目的を達すること能はず更に錨を拔いて島の南岸鬚川(ひない)沖に至り茲に上陸す時に十時半、此上陸に際し短艇轉覆し一行の一部海中に落つ然れども幸に災害少なくして止みたり午後鬚川より陸路島の中央部を横り字島仲を經て租納に到る
十月六日(土)　曇、少雨
午前九時村役場に就きて與那國島に關する諸統計並に調査資料蒐集
午後島の東端に近き字帆安に到る踏査を行ひ所謂大和墓を視る、此日乘船歸還の筈なりしが風波前日よりも荒く乘船不能、凌海丸は租納沖に來りて待てども夫れが爲に再び鬚川に風浪を避く
十月七日(日)　曇、雨
午前九時出發島の西端字久部良に到る迄を踏査し午後四時歸る、海陸の連絡依然不能
十月八日(月)　曇、少雨風强
午前八時宇良部岳(島の最高山にして海圖によれば標高七五七尺)登山
十月九日(火)　風雨甚し
租納附近の海岸を視察し又住民の生活狀態其他一般風俗習慣等を調査す

此日凌海丸は石炭補充の爲め西表(いりおもて)島に向ふ
十月十日(水)　曇、少雨
午前九時一般農業法及農作物に關する調査を爲す
午後三時租納發字貢原を經て鬚川に至る四時同所著
十月十一日(木)　曇、後雨
拂曉凌海丸西表島より歸る
午前七時乘船八時半出帆、午後七時基隆入港其間海上十時間餘とす同八時四十分基隆發九時三十分臺北歸著

二　位置及地形

與那國島は沖繩縣八重山郡に屬する琉球諸島最西端の一小島にして、東經百二十二度五十五分乃至百二十三度二分、北緯二十四度二十六分乃至二十四度二十八分の間に在り。琉球諸島中臺灣に最も近接せるものなり。周圍七里にして東西に長く、南北に狹く、殊に兩端細小となり、形恰も臺灣島に似たり。而して其長徑約三里、短徑一里を過ぎす、面積二•〇四方里なりとす。

與那國島は海洋中に隆起せる一小島嶼なれば周圍自ら波濤の爲に侵蝕せられ、斷岸懸崖を以て圍繞し、僅かに租納、鬚川及久部良の三箇所に砂濱を存するのみ。此等三地は夫々島の北、南、西に位し、漁舟は之より出入すれども、風波少しく高きときは其風向に對する所は舟を寄すること難きを以て、其背後を選んで泊地となさゞるべからず、若し夫れ更に風力を增せば島の內外は全く交通杜絕するに至る。島內の地勢は凹凸起伏甚だしく、殆んど平地を認めず。僅に宇田原に水田として小區域を存するのみ。其他は丘陵或は臺地となり珊瑚石灰岩到る所に突出して地勢を複雜にす。就中島の長徑に沿ひ少しく北に偏して連續せる斷崕あり。其南側は臺地をなし耕地若くは樹林地とな

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

れども、北側は忽ち數百尺を直下して又細長き耕地帶を形成す。此所には往々地水を湧出貯溜し、或は田原川の如き小溪流を顯出す。田原平地の水田も亦此地水を利用して設くるものなり。租納より田原川を隔て丶仰ぐ「キンジャバナ」(劍座鼻?)は該斷崕の著しく突出せる所にして租納の村落を瞰俯せり。

島の中央より少しく東に倚りて宇良部岳あり。標高七五七尺(海圖による)にして丘陵の間に特立し、略圓錐形をなす。島内第一の高山なり。又西方に當りて久部良宇良部岳(案内者の説明による)あり、宇良部岳に次ぐ高地とす。又宇良部岳より東端東崎(あがりざき)の方向に更に一の斷崕の連なるものあり。同じく南側は臺地をなし北側は絶壁をなす。所謂大和墓は此斷崕に形成せる空洞に人骨を納めたるものなり。斯の如く地勢起伏甚だしきを以て、陸上の交通甚だ不便にして、周圍僅に七里に過ぎざる小島嶼なれども、踏査の容易ならざること平野を行くと到底同日に論すべからざるなり。

三　地質及土性

與那國島を構成する地質は全帶第三紀層にして、八重山列島中の石垣島の如き火山岩の噴出を認めず。却て西表島に似たる所なり。卽ち砂岩及頁岩等の互層が基礎となり、其上に珊瑚石灰岩の著しく發達して隆起したるものなり。島の長軸に沿ふ懸崕及宇良部岳の一端より東崎に向て連る絶壁は、共に地質變動による斷層にして、砂岩及頁岩の累層は珊瑚石灰岩を冠りて南東に向て傾斜するを認むべし。租納より仰ぐ劍座鼻(きんじやはな)に於て能く此關係を知ることを得。

宇良部岳の地質は軟弱なる砂岩及頁岩よりなり、毫も珊瑚石灰岩を認めざるなり。猶此嶼に於て砂岩及頁岩の累層の露出せる所は久部良の突角、東崎附近及鬚川海岸等にして、其他は到る處珊瑚

礁を以て覆はれ、更に其上に土壤を冠せり。土壤は一般に埴質にして赭色を呈するもの多く、南部臺灣の珊瑚礁丘に彷彿たり。此を以て觀れば與那國島は第三紀の末葉に當りて生成せるものにして、臺灣に於ける所謂低山性地帶の構成と極めて密接なる關係にあるものと云ふべし。

此の如く全帶の地質構造は至て簡單なるが故に敢て有用鑛物も見出さゞれども、只だ東崎方面に石炭の露頭あり。其質不良炭層淺薄にして到底利用に耐えざるもの、如し。此外銅鑛及鐵鑛等も發見せられたりと稱すれども、試に其鐵鑛を見るに少しく比重の大なる砂岩に過ぎざるなり。銅鑛と云ふも亦恐らく類似のものなるべし、然るに珊瑚石灰岩は到る處に發達するを以て燐酸の蓄積して燐鑛となれるもの無きやを調査したれども、臺灣に於ける珊瑚石灰岩と等しく燐鑛の存在を期すること能はざる狀態なり。左に其試驗の成績を掲げん。

珊瑚石灰岩分析成績　（尾海正應分析）

標本番號	產地	水分	石灰	炭酸	硅酸其他不溶解物	鐵及礬土	燐酸	苦土	亞爾加里其他
三一三	字ハイホダン大和墓附近	〇・五四二	五三・一四一	定量せず	二・三九一	二・一七三	微量	〇・四五一	定量せず
四一六	租納附近小字釜蓋	一・〇三三	四八・三四〇	定量せず	一九・五六六	三・〇三三	微量	〇・五三〇	定量せず
四一七	小字ウブミバナ	〇・五五四	四一・六二七	定量せず	八・三五七	二・三一三	微量	〇・五六一	定量せず

珊瑚石灰岩は燒きて生石灰を造り、製糖用竝に建築用に充て、或は岩石の儘人家の周圍に墻壁を築造するに供せらる。

與那國島の土壤は第三紀層の岩石の上に堆積せるものにして、到る處に岩骨を露出せるが故に、土層は概して淺薄なるが如し。土壤の母岩は頁岩を主とし、砂岩類の風化せるものにして、大半は

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

更に赭土化したるものなり。又下層に於ける珊瑚石灰岩は自ら分解して土壤生成に影響すること鮮からず。租納、鬚川及久部良等の海邊には此細砂を堆積せり。概して此島の土壤は赭土と稱するを得べきが故に、長年月の風化の結果植物の要素は溶竄して地力甚だ瘠薄に歸し、植物の成育佳良ならざるなり。殊に農耕地は毎年作物を收穫して更に肥料を施す習慣なきが故に、地力は極めて瘠惡となり、生産力は至て低劣なりとす。例へば水田に於ける米の產額は一段步當並作七斗乃至九斗(一甲步當六石八斗乃至八石八斗)にして、正に臺灣の看天田に匹敵すべき狀態とす。

四　氣候

與那國島の氣候に關しては倚るべき統計なきを以て詳細を知るに難けれども、北緯二十四度二十六—二十八分の間に在り、臺北より凡そ半度南に位し、海洋中に在るを以て略其程度を察することを得べし。與那國小學校に於て每日午後二、四時頃觀測したる夏冬の最高及最低氣溫を見るに次の如し。

夏	最高	華氏 九三	(攝氏 三三・九)	大正五年七月二十四日
	最低	同 七六	(同 二四・四)	大正五年六月 二日
夏	最高	同 九二	(同 三三・三)	大正六年六月十九日 同 七月 五日
	最低	同 七六	(同 二四・四)	大正六年七月二十一日
冬	最高	同 七六	(同 二四・四)	大正五年十二月 七日
	最低	同 五二	(同 一一・一)	大正六年 一月 八日

但し八月には觀測せされども七月よりは華氏三、四度位高かるべしと云ふ。要之氣溫は夏冬及晝夜により高低の差甚だしく大ならざるべし。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

雨量は全く其實際量を知ること能はざれども、概して頗る豐富なるもの丶如く、殊に毎年十一、二月頃に最も多しと云ふ。夏季には比較的少なけれども農作物が敢て旱害に罹ることなきを以て先づ雨量の分布は北部臺灣と類似せる狀態と見るべきなり。

風は頗る強きもの丶如く、嶼內に大樹を見ず。會々之を存するも其尖端は恰も截斷せられたる如く發育を止め、且つ主風の方向に靡くを見るなり。又鬚川及久部良等の砂濱には石灰岩質の白砂を吹き上げ、丘狀をなす場合あり。而して冬季には北方の季節風發達すること又臺灣に等しく、隨て晚秋に亘る農作物は被害を招くことありと云ふ。嶼は幅員狹小なるを以て、激浪の飛沫は往々强風に伴て內部に迸らる丶ことあるが爲に、鹽分を壓ふ植物は其生育に耐えざるなり。

五　廣袤及土地利用

嶼の廣袤は僅かに二●〇四方里（三千百七十二町六段〇八）にして其利用狀況左の如し。

地目	民有地	村有地	官有地	計
	町	町	町	町
田	四三七・七九二七	—	—	四三七・七九二七
畑	三四〇・四一一〇	—	—	三四〇・四一一〇
宅地	二六・五八六七（七九、五二六坪）	—	—	二六・五八六七
雜地	五・八一八〇	〇・三六二〇	—	六・一八〇〇
山林	一七九・四〇七〇	七四九・九九二五	—	九二九・三九九五
原野	四三四・〇七一四	五一八・六三一三	八三・八三一六	一、〇三六・五三四三
牧場	—	一五・三三一〇	—	一五・三三一〇

池沼	一	六・二二六	一	六・二二六
學校敷地	一	〇・三七一七（一、一一五坪）	一	〇・三七一七
計	一、四二四・〇八六八	一、二九〇・九〇一一	八三・八三一六	二・七九八・八一九五

備考　廣袤二一・〇四方里との差三百七十三町七八八五あり

卽ち全面積の五割餘は民有地にして田畑は其約二割八分に當れり。此點より見れば全面積に對する農耕地の割合は臺灣及內地よりも大にして歐米に比しては山岳に乏しき和蘭に匹敵せり。此等の田畑は表土割合に深く傾斜少くして耕耨に適する所を選びたるものにして、水田の開設灌漑水の潴溜等には多少意を用ひたる跡を認むるに足るなり。山林及原野は官有、村有、民有を合すれば全面積の七割强に相當し、大部分を占むることを察すべし。此等は傾斜の急峻なる山腹又は岩骨の露出せる所にして將來農耕地として利用に耐えざる所多けれども、荊蕀を拓き岩石を除きて開墾に力むるものあるを以て、年々山野の多少田畑に化するものある狀態なり。牧場は面積僅に十五町餘に過ぎざれども、村有地として存するは臺灣と其類を異にせる所にして、村民の共同放牧地となし牛、馬、豚、山羊等の繁殖育成を圖れり。

要之土地利用の狀況は自然の地形に支配せらるゝこと巳むを得ざる所にして、農耕地に適する區域は力めて之に種培し、丘上山腹にして灌漑に不便なる所は畑とし、地勢低く用水を得るに便なる場合は勿論、降雨の時期を待ちて灌漑を行ふ所も臺灣の「看天田」と同じく「天水田（てんすゐだ）」或は「畑田（はただ）」と稱して水稻の耕種を圖れり。林野には別に造林を行はず、自然に放任して蓁叢となせども、季節風强きを以て喬木も爲に天を摩するに至らず、尖端恰も截斷せられたる如き有樣を呈して深々たる林相は尋ぬべからざるなり。磽角の地には蘇鐵の野生するものあり、蓋し曩に救兇備荒の爲に他の地方

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

より移植したるものにして現在は敢て產を擧ぐるに足らざるなり。林產物として雜木より島民の需用する薪炭を得、林投(阿丹葉)より製帽原料を求め蒲葵(ビロー)の莖葉を種々なる用途に充つるが如きは主なるものなり。

六　人口

與那國島の戸數は總計六百五十八戸にして、內本籍五百四戸寄留百五十四戸とす更に之を職業別にすれば左の如し。

職業	戸數	職業	戸數
農業	五三七	金錢貸付業	三
工業	八	公務及自由業	一五
商業	七	雜	一八
漁業	六八	計	六五六

之に由て觀れば住民の大部分は農業者にして、其他は極めて少なきを知るべし。而して人口に就きては

男	一、八一三	本籍	一、六五一
		寄留	一六二
女	一、七五八	本籍	一、七五〇
		寄留	八
計	三、五七一	本籍	三、四〇一
		寄留	一七〇

卽ち本籍者に於て女は男より九十九人多けれども寄留者によりて殆んど平衡を保てり。

猶は以上の統計により人口の密度を算出するに一平方里に付き一、七五〇人にして臺灣の一、四九

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

一人弱よりは多く、日本の二、一五二人よりは少なし。又總人口に對する農業者の割合は（農家一戸五人と見做し）七割五分にして日本に於ける維新以前の狀態にありと云ふべし。蓋し本嶼が海洋中に孤立して自給自足の農業地として繼續し、商工業の發達なく推移し來りたるを以てなり。

此の如く土地利用の狀況より見るも島民の職業狀態より察するも本嶼は農業を主なる生業とする所にして、產物少なく交通不便にして所謂文化の普及は甚た遲々たるなり。

人口の增殖に付きては本嶼は所謂八重山熱と稱する「マラリア」病の病原なきを以て、年々增加の趨勢を示せり。卽ち大正五年度に於て本籍者の出生及死亡數を擧ぐれば次の如し。

	計	男	女
本籍者出生數	一四六	六三	八三
本籍者死亡數	五三	三七	一六
本籍者增殖數	九三	二六	六七

由是觀之女は出生數多くして死亡數少なく、男は之に反して出生數少なくして死亡數多し。仍て女は男の約三倍の增殖數を示し、男女合計九十三名に上れども、此現象は本嶼に於て常態なるべきや否やは今遽に決定すること能はざるなり。何となれば本籍者の總數に於て女は男より多けれども、其割合は大正五年度に於ける女の過剩數の約倍數に過ぎざればなり。

次に大正五年度に於ける本籍者の總數と農耕地面積との割合を見るに次の如し。

	每一人に對し平均田畑の面積（町）
與那國島	〇・二二八八
臺灣	〇・二〇八六
內地	〇・〇九八五

卽ち每一人に對し平均田畑二反二畝餘にして、臺灣及内地の割合に比すれば少しく大なり。仍て土地生產力同一なりとせば本嶼に於ける人口增殖は猶は餘裕ありと云ふべし。

七　島民の衣食住

與那國島は交通不便なる一小島なるを以て住民の衣食住は成るべく自給自足の狀態に在るは當然なりと云ふべし。卽ち「衣類」は多く芭蕉布を用ひ、綿布絹布等は至て少なきが如し。住民は各山間又は濕潤なる土地を選んで絲芭蕉(Musa ryukyuensis Makino.)を栽培し、其纖維を取りて自ら紡ぎ、自ら織りて布となし、多くは「シャリンバイ」(Raphiolepis indica Lindl. var. Tashiroi Hay.)を以て染めたる淡褐色の衣服を纏ふ。時に黑色に染め、絣又は縞となすものあれども、平常之を著用するもの少なし。大正五年度の芭蕉纖維生產額は三千斤にして其價額四百五十圓とし芭蕉布として八百反其價額千三百五十圓(平均一反一圓六十九錢)なりと云ふ。猶は紡績類五十函價額二百五十圓は租納の商賈を經て嶼内に供給せらる。次に島民の「食物」は一般に蕃薯(甘藷)を主食物とす。卽ち概して二食は是にして他の一食は米を用ふるが如し。統計の示す所によれば米穀は大正五年度に二千九百九十五石を產し、同年度の移出入は詳かならざれども前年度と同一なりと假定せば九百六十石の移出に對して三十石の移入あるに過ぎず。仍て一箇年に約二千石の米が嶼内に於て消費せらるゝ計算なり。之を島民全體に割當つれば平均一年一人五斗〇四合にして、假令嬰兒を控除して計算するも一人當の消費量は甚だ小なりとす。卽ち蕃薯は主要食物として貴重なる所以にして、大正五年度の蕃薯生產額は四百五十六萬斤とし、澱粉に製して糊となすものあれども大半は島民の食用に供せらるゝものとす。此平均一年一人宛千二百七十七斤一日一人三斤餘宛を消費する割合なり。肉類は餘

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

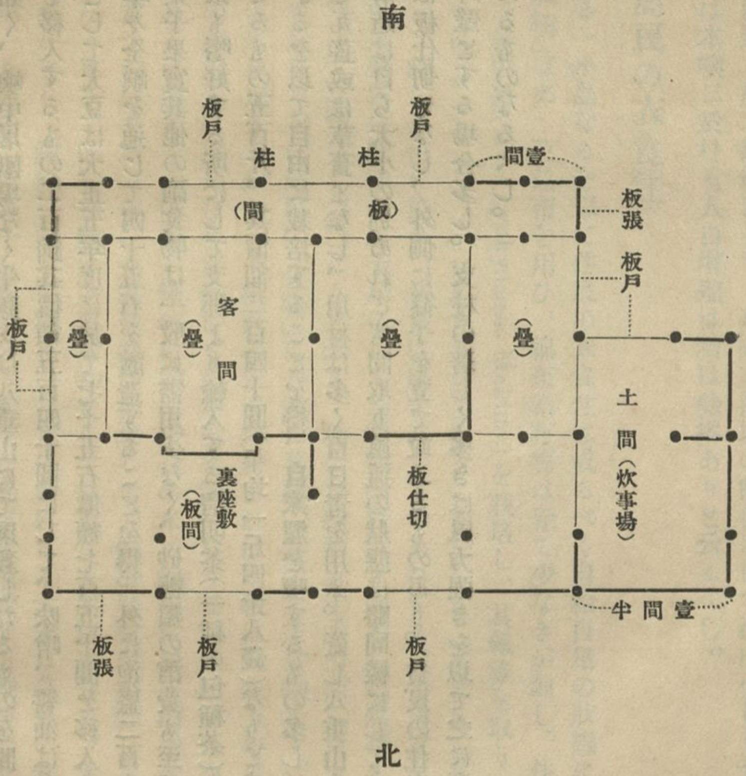
農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

り食用とせざるものゝ如く、嶼中屠獸場なく牛豚肉は八重山にて屠殺したるものを間々持ち來る程なり。猶は此外に麵類を移入するもの二百函其價額五百四十圓にして、味噌、醬油は自ら之を製造す。而して醬油の原料として大豆は大正五年度に於て七十五石價額七百五十圓を移入せり（味噌は大豆を用ひず）（大正五年）。酒類は年々全嶼を通じて四十五石を釀造することを得。外に泡盛二百本價額四千圓を移入す（大正五年）。菓子果實其他の副食物は一般に需用少なく、砂糖類の消費も至て小なるものゝ如し、茶は沖繩人の最も嗜好する所にして支那より輸入する清明茶（一種の包種茶）を普く使用せり。大正五年度に移入せるもの五百斤、其價額二百四十圓（平均一斤四十八錢）なりとす。煙草は本嶼に專賣制施行せられざるを以て自由に栽培することを得、自家煙を喫するもの多し。「住宅」は殆んど全部木造家屋にして瓦葺或は草葺となし、用材は多く百日青を用ふ。蓋し八重山方面より移入するものなり。家屋の構造は自ら大小の別あれども間取り風通の狀態は略同樣にして支柱著るしく多く、土壁なく板戸或は板仕切となし、外側に篠子を立て竝ぶるものあり。貧民の住宅及納屋、物置等は單に篠子のみを外壁とする場合多し。支柱の著しく多きは風力強きを以て之に對する保護の必要上斯くの如くなしたるものなるべし。

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

租納上流家屋平面圖

(建坪二十三坪七五)



床は板張なれども時として篠子を竝べたるものあり。疊はヤマアサ（Hibiscus tiliaceus L.）と稱する樹皮を縦糸として三角藺にて織れる粗糙なる表を用ひ、主として表座敷に布き裏座敷は多く板張の儘とす、炊事場は住宅の一方を土間として之に充つ、普通押入れなく家内の裝飾として見るべきものなし。一般に住民は貧富を論せず家具什器を多く所持せす。日常の生活狀態は單簡を極めたるものなり。住宅の周圍には物置、鷄舍、豚舍、井戸等あり繞らすに珊瑚礁にて築ける墻壁を以てす。而して住宅は常に必ず南面するを通則とす。

村民生計調（一箇年）

收支項目		上	中	下
收入	田作	円 三〇〇・〇〇〇	円 九〇・〇〇〇	円 一九・四〇〇
	畑作	一四一・〇〇〇	一六三・〇〇〇	—
	家畜家禽	四六・〇〇〇	一八・〇〇〇	八・五〇〇
	雑	二〇・〇〇〇	—	（勞働賃）一五・〇〇〇
	計	五〇七・〇〇〇	二七一・〇〇〇	四八・五〇〇
支出	生計費	二一六・〇〇〇	一四四・〇〇〇	三六・五〇〇
	諸税	三八・〇〇〇	一五・〇〇〇	〇・四四〇
	教育費	三・五〇〇	三・〇〇〇	二・〇〇〇
	交際費	五・〇〇〇	八・〇〇〇	一・二〇〇
	業務に對する諸費	六〇・〇〇〇	一三・〇〇〇	—
	計	三三二・五〇〇	一八三・〇〇〇	四〇・一四〇
	差引純益	一七四・五〇〇	八八・〇〇〇	二・三六〇

八　農業一斑

農業は島民の最も主なる生業にして、土地利用及職業の狀態より觀察するも容易に肯定するを得べし。然れども農業の方法は島民の生活狀態と同じく舊習を墨守して新に就かず極めて幼稚なるものなり。

〔整地〕　農民が土地を耕起するには一種の犂を用ひ、牛又は馬をして之を牽かしむ。犂の構造は本島の犂に似て然も尙ほ簡單なるものにして、其著しき點は犂の刄が本島犂の如く廣からず恰も鶴嘴の如く尖がり細長なる事なり。之を以て僅かに二、三寸の深さに其刄を土中に挿し込み牛又は馬をして牽かしむれば、犂は只だ條溝を作るのみにして撥土を轉覆することなく、第一と第二の條溝とは互に約五、六寸を隔つれども、其間の耕土は敢て犂き起されずして原態の儘なり。此の如くして全耕地を作條(犂起と云ふよりは)すれば水を引き適宜に湛ふるに及び牛馬を五頭乃至八頭併立せしめ頸の所にて輕く連絡し、一人の農夫其後に立ちて牛馬を驅り、一端の動物を中心にして廻行せしめ、土壤を捏ねて軟かにし、恰も全帶耕耘攪拌したる狀態となす。若し水を引くに位置高ければ蒲葵(びろう)の葉にて作れる籠(葉の尖端と本とを連結してバケツ樣になしたるもの)を以て汲み上げ、灌漑す。其手數實に夥しきものなり。斯くて土壤を捏ね終れば更に牛馬をして底面平かにして稍大なる珊瑚礁を引かしめ、水田の表面を平坦にす。故に動物を以て土壤を捏るは臺灣の刈耙に等しき作用にして珊瑚礁を引き廻はすは碌碡に相當するものなり。

〔肥料〕　作物を栽培するに從來肥料を施用する習慣なく、隨て之を製造し或は之を購入することなし。近來甘蔗作の漸く勃興するに及んで多少堆肥の如きものを用ふるものあれども、地力增進上未

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

だ見るべき效果を擧ぐるに至らず。

〔灌漑及排水〕 本嶼は已に述べたる如く起伏凹凸夥しく且つ狹隘なる所なれば灌漑の便に乏しく田地の三分二は天水田若くは畑田と稱して雨水を引きて水稻の耕種を行ふものとし、臺灣の所謂看天田なり。灌漑の便ある水田は大部分租納附近字田原の平地に存するものにして、玆に湧出する地水と田原川の水とを以て灌漑するものなり。田原川は宇良部岳の西麓より流れ出づる細流にして地水の滲透して集まれるものなり。延長僅かに十數町を超えず、租納の郊外に於て海に入る此川は元と低卑にして潮流の容易に浸入せし所なりしが、明治二十年沿岸を修築して其被害を防ぎ、其附近に良田を得たりと云ふ。今其紀念碑文を左に掲ぐべし。

田原川開鑿紀念碑文

明治二十年丁亥七月余忝奉本島與人之職赴任焉爾來孜々不致怠常汲々用心慮於濟民之業抑爲本島之地周圍五里有餘而四面皆渺茫大洋也故一有逢凶年則無所求食唯空仰天待餓死而已矣豈可無豫防之策焉哉於是余按地圖察地理且巡閲實地本島南方有沃田其反別凡二十五町二段四畝有餘而島中第一之田地也稱其所謂田原又有一溪流名謂田原川而其下流連續於海焉然徒海面低四尺故退潮則川水海注進潮則遡川一進一退殆無期故少有風波海水漫々汾入於田原一面如海而不流去故耕耘失便田稻十分所收得於七分或五分或毫不可收拾損害甚不尠也就中川邊之人家潮水相漲家畜爲溺死菜蔬爲枯槁飲水爲濁一時之損害關島中之休戚矧暴風怒號巨濤襲來之時哉直島民之憂歎可想矣以是余不忍熟視則定計畫更議川流之開鑿於島中之父老皆悉翼贊其議故不問男女以同年九月二十二日著手川流之開鑿以同二十四日竣工焉其水道廣九尺深六尺乃至九尺長三町七間也舊川之海岸築堤防高二間長三十五間横七間也而今也流水溶々平直流去於海堤防堅固無洪波氾濫之憂五穀成熟耕○無所便失○○又○百年來膚不毛賞○不開榛蕪得田地三町九段八畝餘又壙廐舊川得宅地一町二段六畝有餘其裨益豈不尠也○望後來○○○○○○○終係持此業以稱島民之意矣因玆書川流疏通之由來銘石以爲紀念

明治二十二年己丑卯月吉日

當島與人松茂姓

大濱當行謹立

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

天水田は勿論一年一作にして耕地の管理も周到ならず、肥料を用ふる習慣もなきを以て生産力は極めて低劣なるものなり。普通水田は常に灌水の便あり。肥料を用ひざるは天水田と同樣なれども、生産力稍高し。然るに一年二作を行ふことは七八月の交用水の交流なきが爲に著しく水溫を增すを以て不可能なりと云ふ。恐らくは一の誤信に過ぎざるものならん。排水は地勢上自ら良好にして特に其施設を要する所なく、崖下の地水を湧出する場所も却て之を利用する狀態なり。

〔地價及小作料〕 與那國には貧富の差甚しからず、土地兼併の弊も未だ盛ならざるを以て、地主と小作人との懸隔著しき現象に達せざるなり。然れば就中大地主と稱するものも田三町餘畑其他一町餘を所有するに過ぎざる有樣にして、自作小農の多き所と云ふべし。隨て土地の賣買も餘り行はれざれども稀には上田一反五十圓上畑一反二十五圓位にて授受せらるゝことありと云ふ。又公定地價として各種地目を等級に應じ左の如く區別せり。

地目別公定地價等級割

等級	田	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雜地
一等	円 九・〇〇	円 七・五〇	円 一四・〇〇	円 〇・六〇	円 一・五〇	円 一・二〇	円 〇・九〇	円 一・〇〇
二等	七・〇〇	五・五〇	六・〇〇	〇・五〇	一・二〇	〇・八〇	〇・六〇	〇・九〇
三等	五・五〇	四・〇〇	―	〇・四〇	〇・八〇	―	〇・三〇	〇・五〇
四等	四・〇〇	三・〇〇	―	―	―	―	―	―
五等	二・五〇	二・〇〇	―	―	―	―	―	―
六等	一・二〇	〇・七〇	―	―	―	―	―	―

小作料は普通作分けとし、良田は二分一天水田は三分一を地主に收むる習慣なれども、若し料金

を支拂ふ場合は大凡左の如き割合なりと云ふ。

		上	中	下
田	一反歩	四圓	三圓	二圓
畑	一反歩	三圓	二圓	一圓

天水田は耕作上手數を要するが故に近時蔗園となすもの多しと云ふ。

〔面積の表し方〕與那國にては耕地の面積を表はすに俗に「一耕地」を單位とする場合あり。一耕地とは四十尋平方にして之を換算するときは三反七畝なりとす。

〔農産物及其價額〕農産物の主要なるものは勿論彼等の食物として缺くべからざる米及蕃薯にして、其他甘蔗、小麥、豆類等あり。次に大正五年度に於ける各種農作物の作付反別及收量、價額等を表示すべし。

農作物作付反別收量及價額（大正五年度）

作物種類	作付反別	收量	價額
米	三九九・四町	二,九九五・〇石	三三,四五七・〇〇〇円
小麥	一八・五	二一・〇	八五二・〇〇〇
大豆	二・〇	一三・〇	一九五・〇〇〇
小豆	一三・〇	四三・二	四三二・〇〇〇
粟	一〇・五	三四・六	一,〇三八・〇〇〇

黍	三·〇	七·五	六〇·〇〇〇
落花生	〇·四	九·〇（穀共）	四五·〇〇〇
甘藷	一五二·五	四五六萬斤	三、八〇〇·〇〇〇
甘蔗	五九·八	一、五五八萬斤	九、三四八·〇〇〇
三角藺	〇·六	七二〇（乾草）	二一·六〇〇
計	六五八·六	―	六八、三三八·六〇〇

此外南瓜、糸瓜、苦瓜、茄子、牛蒡、葉菜類、芋等の蔬菜類を多少栽培すれども固より重要なる産額に達せず皆島民の副食物に供するものなり。

九　農作物

〔米〕　は十月中旬頃苗代の整地を行ひて下種し、七十三日にして移植挿秧することを得るものとす。本田は其間に準備して十二、一、二月迄の間に田植を行ふものにして、一月を最も適當とせり。蓋し小滿（五月二十一日前後）の時期に開花するときは恰も寒冷なる北風の爲に被害を招くを以て之を避くる爲に挿秧の適期を選ぶものなりと云ふ。水田の除草は二回乃至三回施行し、天水田は必ず三回施行す。斯くて六七月の間に刈取りて收穫す。稻は束のまゝ一旦乾燥して扱き籾は摺臼にて摺りて玄米とす。但し自家用米及種籾となすべき部分は籾となさず束のまゝ「シーラ」と稱して前庭の隅に堆積して風雨を防ぎ貯藏し必要に應じて籾となし、或は玄米となして使用するものなり。米は八重山或は那覇より來る米商に賣渡す習慣にして大正五年には一俵三斗二升入平均三圓なりとす。米は食料となす外全島を通じて四十五石を限りて釀造する燒酎の原料となす。

本嶼に於て最も優良なる粳米は方言「マーノマイ」と稱するものにして褐色の長芒を有する品種なり、見本として農事試驗場に齎せり。

〔蕃薯〕　は殆んど年中栽培することを得れども、普通四、五、八、九月に植うるを習慣とす。苗は特に苗床を設けず薯畑より蔓を八寸位に切り取りて整地したる新畑に挿植すること臺灣に於けると同様なり。然れども全く畦條を作らず任意の間隔に薯苗を挿植するを以て收穫まで除草培土を行はず放任す。斯くて挿植後五箇月目位より農家が毎日食用に供すべき分量を成るべく大塊を選みて掘り取り、小塊は更に發育を待ちて收穫するものとす。而して全圃の等しく成熟するに及んで悉く之を採取して貯藏することは一般に行はざる所なり。然れば農家の食用に供すべき蕃薯は絶えず畑地に生育する所以にして一區劃の薯畑は普通八箇月間位に採掘し盡さるべし。蕃薯は賣買すること少く多くは日常の食料に供すること前述の如し。其用法は薯を茹でゝ皮を去り臼にて搗き徑三寸位の團子に握りて「ウンテノヱイ」と稱し、其日の食物とす。蕃薯は此外に澱粉を作り猶は餘裕あれば家畜の飼料となす。又澱粉を作れる糟は乾して貯へ食用に供することあり。能く貯藏に耐ふるを以て救荒の備となすに足ると云ふ。而して糟も亦其過剩あれば動物の飼料となす、本嶼に於ては薯燒酎を作ることなく又切乾となす習慣なしと稱せらる。蕃薯の品種は二三にして止まらざるが如しと雖も最も優良なる赤皮種を農事試驗場に齎せり。

〔小麥〕　は十一月に播種し四月に收穫す。而して之を栽培するには必ず畑作となし天水田の後作とすることなし。小麥も畦條を設けずして散播となし下種したる後阿旦(林投)の枝葉の如きものを牛又は馬に牽かしめ攪拌して均等に發芽せしむ。除草、中耕等を行はず登熟せば根本より刈取りて乾燥す。而して乾燥したるときは圓き石に摺り或は蚊帳を吊り其中にて束を叩き脱殼す。小麥の用途

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

は主として醬油釀造の原料となすものにして嶼內の需用に足るべき生産あり又多少穀粉に製することありと云ふ。

〔大豆〕は二月に播種し六月に收穫す。作條して點播となすこと內地の一般に等しく生育中除草を行はず收穫に際しては根より拔き取り乾燥して莚の上に打ち落すものとす。品種は專ら白大豆にして醬油釀造の原料に供し大正五年度に七十五石價額七百五十圓の移入を仰げり。

〔甘蔗〕の栽植は三、四、五の三箇月の間に行ひ田植の後にするを普通とす。甘蔗の耕作は近時著るしく盛大となれる傾きあり。丘頂を避けて低地の强風に觸れざる區域を選び、天水田も蔗園に變ずるもの少なからず。甘蔗の品種は沖繩の在來種にして、臺灣の竹蔗に似たるものなり。畦巾は二尺五寸內外にして一般に肥料を用ひず植付より收穫まで鎌草、鍬草の二回除草を行ひ鍬草の時に培土を施すものとす。刈取りは二、三、四、五月の間にして耕作者が各製糖をなす習慣なるが故に蔗莖の賣買行はれず從て其重量を秤量せざるを以て一定面積の生産量を知るに由なし。製糖の方法は臺灣の所謂舊式糖廍に等しく在來の慣習によるものにして縱軸鐵製の三輪壓搾器を牛又は馬に囘轉せしめ搾汁を石灰にて處理し煮煎して黑糖となす。製糖場は個人の所有に屬するものあり、或は數人の組合に屬するものあり、若し之を所有せざる場合は他より適當の時期を定めて賃借するものにして其料金は黑糖一挺卽ち一樽に付き五十錢を支拂ふものとす。現今全嶼を通じて製糖場の數は十二三に增加したれども、猶は之を所持せざる蔗作者多きが故に多くは賃借法によりて製糖するものなり。製糖の效程は一日二、三挺にして煮煎に要する燃料は村有山林より林木の拂下を請ひ、之に充つるものにして黑糖一挺に對し切口代五錢を徵せらる。又搾粕は其補助燃料となす。一挺の黑糖は重量百二十斤にして蔗莖千六百斤を以て製することを得べし。今大正五年度に五十九町七反八畝より千

五百五十八挺の黑糖を得たるを以て、臺灣に於ける場合と比較する爲め之より一甲當の蔗莖收量及砂糖の步留等を算出すれば左の如し。

一甲當蔗莖收量	四萬〇九百四十六斤
一甲當砂糖の生產量	二十五挺六分
砂糖の步留	七分五厘

之を以て見れば一甲當の生產量竝に砂糖の步留共に甚だ劣ることを認むべし。而して黑糖一挺の價額は六圓乃至七圓にして一旦八重山に移出す。稅金は一挺に付き二圓四十錢にして買手の支拂ふものとす。

〔煙草〕は本嶼は未だ專賣制施行せられざるを以て耕作自由にして內地種「劍先」「七十葉」等を栽培す。

〔茶〕　茶樹は全く栽植せられず然れども島民の需用を充たす爲に試植を企つるものあり。

一〇　家畜

與那國島には家畜家禽類割合に多く夫々役用、乘用、食用の目的を以て飼育す。役用には牛及馬を充て乘用には馬、食用には牛、山羊、豚、鷄、家鴨、鵞等とす。次に大正五年度の統計を示せば

牛	四三五	
馬	一八五	
豚	六五〇	
山羊	二二八	
鷄	二、四八一	（內成禽　一、二四三）

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

家鴨　一〇一　（內成禽　五四）

にして又大正四年度の繁殖數を擧ぐれば左の如し。

牛	牝	二九
	牡	二六
馬	牝	一八
	牡	一三
豚	牝	二三七
	牡	二八四
山羊	牝	三七
	牡	二三

之を以て見れば農業上役用に供する牛馬の頭數は六百二十頭にして是れより當歳の動物を控除するも農家一戸に付き平均約一頭の動物を使用する割合なり。之を臺灣の狀況に照せば甚だ多きを認むべし。殊に風土地勢及自然の草木等臺灣と大差なく、敢て優良なる牧草の有るにあらざれども、馬匹百八十五頭を算するは最も注目すべき事なり。卽ち本嶼の珊瑚石灰岩の露出せる丘陵にして表土淺く農耕に適せざる所は柵を繞らして牧場となし、牛馬山羊の混同放牧を行へり。牛は多く黑色にして往々白斑を交ふるものあり。原種は日本在來の種類に屬するもの〻如し。馬は體軀小にして沖繩一帶に見る種類なり。山羊は褐色の皮毛を有し紅頭嶼の種類に彷彿たり。此等の動物は常に放飼して野草を求めしめ、舍飼とすることなく、必要に應じ各自牛馬を野外より牽き來りて使役し、能く其性質を善用し、勞力の輕重緩急に從て使ひ分くる狀態なり。島內には屠場なく豚羊は八重山に移出して販賣撲殺す。若し島內に在りて動物の賣買をなすときは平均左の如き價格なりと云ふ。

牛	五〇圓
馬	六〇圓
豚（生體量百斤）	一〇圓

大正五年度に於て牛十五頭價額三百圓、豚百十九頭價額千百九十圓を移出し、外に牛皮五十枚價額二百五十圓を移出したり。蓋し此牛皮は八重山にて屠殺したるものより得たるものなるべし。家禽類は矮小なる在來種にして臺灣のものに似たり。又猫は多けれども犬は甚だ少し。

一二　結　論

與那國島は海洋中に孤立し交通不便なる一小島にして、風土地味敢て優良なりと云ふべからず。產物亦見るに足るべきものなく、人文遲滯して恰も數十年前の歷史を實際に見る感あり。故に大局より觀察する時は產業に軍事に殆んど經綸を要すべきものなしと雖も、住民の立場より彼等の文化を進め其幸福を享受せんとせば臺灣との交通を頻繁にし、其產物を玆に送り、其必要品を之より入れて彼我經濟的距離の接近を圖るべきなり。若し夫れ出來得べくんば彼等を臺灣總督府の統治の下に置くを可とするものなり。

現在の狀態に在りても彼等の努力を要する事は農業上のみにても猶は頗る多きものあり。卽ち農具の更新、耕作法の改良、肥料の施用、種子の交換、地力の增進、家畜の改良、製糖法の改善等一々枚擧に遑あらざるなり。是等は地遠隔にして區域小なるを以て縣當局者も從來顧みざる所なり。住民は宜しく自ら奮起して進むにあらざれば舊套を脫すること蓋し至難なりとす。

唯若し企業家ありて甘蔗耕作の統一及製糖の改良を企つるものあらば面積は小なりと雖も漸次土地生產力の增進に伴ひ、一小工業を興すに足るべし。又本嶼に馬匹の育成を成就せるを見れば風土地勢其他の事情を等うせる我臺灣は產馬の難からざるを知るべく、却て其特性を利用して乘用輕輓用及駄馬用として重用せらるゝに至るべし。加之一朝有事の場合には軍馬補充の策を樹てざるべか

らざるを以て、此矮馬を基礎として臺灣の風土に適應せる優良馬を育成することも亦策の宜しきものなりと信ず。（十一月十二日於土性調査室）

臺灣省農業試驗所 圖書室 應用動物系
農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Taiwan
053

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

BULLETIN NO. 125. DECEMBER, 1917.

AGRICULTURAL EXPERIMENT STATION

Government of Formosa.

Agriculture in the Island of Yonakuni near Formosa.

By

Kisaburo Shibuya.

Published by the Station.
Taihoku, Formosa,
Japan.